

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(英語)
／杉浦 裕子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

平成23年度より、エリザベス朝研究会という研究会を母体に科研費の基盤研究(B)に共同研究者として関わっている。これは、平成26年度までの計画であり、各研究分担者がそれぞれのテーマを持って研究に動いているが、場合によっては、26年度中までに自分のテーマ関連で個人で科研を申請する可能性もある。しかしこれは、別の鹿児島近代初期演劇研究会で申請中の科研費(平成24年度～27年度で申請中)の採否の結果にも拠る。すなわち、同時期に3つの科研が重なるのは大変だろうが、常時、共同研究と個人研究を併せて1～2個は科研を持っておきたい。

2. 点検・評価

エリザベス朝研究会で交付された科研費で、分担者として2年目の研究を行った。(詳細は研究の欄参照。)
鹿児島近代初期演劇研究会で、研究分担者として、平成25年度からの科研費の申請を行った。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

○公開講座や免許更新講習の場などで、大学院の宣伝を行う。
○英語コースのHPの内容が一新したので、今後も内容の充実を図ると共に、HPを通しての問い合わせにも適宜対応する。
○その他、コースの先生方と適宜話し合って必要な取り組みを行う。

2. 点検・評価

○大学の公開講座は中間報告にもあるとおり、受講生が二人でありあまり宣伝に役立つ場ではなかった。松茂町立図書館の公開講座は、毎年複数の教員が関わり、大学連携講座としてやっているのですが、大きな意味で大学の宣伝にはなっていないが、定員充足を目的としたものではない。公開講座や免許更新講習以外でももう少し別の形の取り組みが必要だと感じる。
○HPIは着々と充実しつつある。
○コースでは複数の先生方が他大学を訪問しているが、個人的にはまだ訪問等に行っていないので、今後自分にできることの検討する。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 新3年生の担任となるので、教育実習前、実習中、実習後と必要な助言を行いながら、学生が教育実習を境に大きく成長できるように支援する。
- ゼミ生の研究を支援し、ある程度のレベルの論文を書けるように指導するとともに、採用試験対策としての英作文なども指導する。
- ゼミ生が一人4月から半年留学するので、留学中も適宜連絡を取りながら学業・生活の支援を図り、また帰国後には半年遅れて卒論にとりかかることになるが、その指導もうまく行う。
- その他の英語コースの学生や、授業で接する学生達とコミュニケーションをはかり、必要な支援やアドバイスを行う。

2. 点検・評価

- 3年生の担任として、また大学院のゼミ担当教員として、教育実習先に足繁く通い、授業を参観してアドバイスをを行った。また、3年生の合宿研修、就職支援事業、学習キャリアノートを通じて、採用試験対策への意識を高めると共に、自分も模擬授業や集団面接の面接官としていろいろなことを学んだ。
- 学部のゼミ生は採用試験に合格するとともに卒論も十分なレベルで完成させた。大学院のゼミ生は私立の高校に採用が決まり、長期履修の2年次で退学することが決まったが、ゼミ指導は継続し、それまでの研究成果を論文の形にまとめた。(来年度『鳴門英語研究』に投稿予定)
- 留学から帰国したゼミ生の、卒論指導を継続中である。
- 今年は大学院の長期履修の1年生との接点が例年よりも少なかったが、全般的には授業やその他の機会を通して学部も員も学生とのコミュニケーションが取れている。学部生には授業以外で英文読解の指導を行ったり、留学相談に乗ったりもした。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- 平成23年度から科研費の研究で行っているエリザベス朝の演劇ネットワークに関する研究を引き続き行う。
- 少年劇団のテーマで学会発表(Shakespeare学会)を行う。
- 「ノヴェルの女性と舞台の女性」の原稿を完成させ、Shakespeare Newsもしくは他の学会誌に投稿する。
- 鹿児島近代初期演劇研究会で申請中の科研費が採択された場合、その計画に基づいて研究を行う。

2. 点検・評価

- エリザベス朝研究会の科研費で夏に渡英して資料収集を行い、9月には研究会で発表した。
- 第51回シェイクスピア学会で、ベン・ジョンソンの劇を少年劇団の観点から分析して発表した。また、発表内容に加筆修正を加えて投稿論文の形にまとめた。(投稿の締めきりは2013年5月)
- 学会発表終了後は、引き続き少年劇団関係で、ベン・ジョンソンの別の劇とジョン・リリーの劇を比較する形の研究を始めた。
- 「ノヴェルの女性と舞台の女性」の投稿論文は不採用だったため、書き直しを進めている。来年度投稿予定。
- 鹿児島近代初期研究会で、新たに平成25年度からの科研費を申請した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 英語コースの中で諸先生方と協力し合い、コースに貢献する。
- 担当の委員会や専門部会(地域連携委員会、学部教務委員会、教職実践演習に関わる二つの専門部会)の仕事を粛々と行う。

2. 点検・評価

- 英語コースの先生方と協力して、コースの仕事を分担した。
特に今年は、鳴門英語教育学会の事務局長として、夏の学会の企画や学会誌の編集等で貢献した。
- 学部教務委員、地域連携委員、教職実践演習実行委員、紀要(実践研究)編集委員としての仕事を粛々と行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- 地域連携センター主催の公開講座、松茂町立図書館での大学連携講座などを通じて、自身の研究を、一般の人にも分かりやすく紹介する。
- 免許更新講習で、英文をコンテキストの中でとらえることの重要性を、教育の現場で活かしてもらえるような講習をする。
- 附属学校での研究会参加や教育実習見学や授業を通して大学と附属学校の連携を図る。
- 留学希望の学生の相談に乗る。
- 教育支援アドバイザー制度に登録し、需要があれば地域の中・高などで生徒、教師、保護者を対象に、学校教育に資することのできるような文学講義をする。
- まなびひろばに登録する。

2. 点検・評価

- 地域連携センター主催の公開講座を8月に行った。松茂町立図書館での公開講座も1月に行った。
- 免許更新講習では、昨年よりも教育現場で役に立つ講習を行えたと思う。来年度は更なる改良を試みる。
- 9月には3年生の教育実習見学や実習生の指導で附属小と附属中に何度も通った。その他「初等中等教科教育実践Ⅲ」の授業を通じて附属小・中の先生方との連携を図った。
- 3年生の留学希望者の相談に乗った。
- アドバイザー制度に登録したが、依頼はなかった。
- まなびひろばへの登録はしないままだった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)